



1月から2月にかけては蝶の大発生が見られる。



子どもたちは写真が大好き(右は筆者)。



ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

仮設でも「我が家」に —カクマ難民キャンプでのシェルター支援事業—

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク1月号の販売部数

6,132部×3円=18,396円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票	
発行日	2015年1月1日
発行時間	10:00~17:00
発行場所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
発行金額	¥18,396
振込先	株式会社メディコム
振込口座	口座番号: 12345678901234567890
振込金額	¥18,396
振込手数料	¥0
合計	¥18,396

peace winds JAPAN

タウトク medicomm inc 株式会社メディコム

月刊タウン情報クシマ編集部

みなさま、こんにちは。アフリカ事業担当の竹中と申します。今回は、ケニアにあるカクマ難民キャンプでの活動をご報告します。

この記事をお読みいただく頃には、もう春の兆しを感じられるでしょうか。私は、1月下旬の雪が降る広島本部を出て、年間で一番暑く蝶が乱舞するカクマ難民キャンプと首都ナイロビに2週間の出張にきています。カクマ難民キャンプは、ナイロビから飛行機で約1時間半、南スーダン国境から約100kmのところにあります。今年で24周年となる難民キャンプですが、今も南スーダンをはじめ周辺国から難民を受け入れています。2015年は新たに約7,200人の難民が到着し、当初計画していた受け入れ可能人数の約2倍となる約18万人が避難生活を送っています。私たちが目にしたのは、新たに仮設住宅を建設するスペースも十分になく、定員5人の住宅に10人以上の家族や別世帯の人々が一緒に暮らさざるを得ない状況でした。難民キャンプに暮らすのは、ほとんどが女性と子どもです。成人男性は南スーダンに残り家を守ったり、戦闘に加わったりするなかで、女性や子どもたちは国境を越えてこのキャンプに逃げてきたのです。おばあちゃん、お母さんが自分たちの子どもに加え親戚の子どもを預かって一緒に暮らしている世帯や、二人の奥さんとそれぞれの子とも一緒に同居している世帯など、多いところでは13人が小さな仮設住宅に暮らしています。しかし、床面積が約16平米の仮設住宅では、10人以上と一緒に寝ることができず、外で寝る人たちもいます。

ピースウィンズ・ジャパンは、このような過密状態で暮



土ブロックを頭に乗せて運ぶ子どもたち。 土ブロックを型で抜いて作る。

らす人々を対象としたシェルター支援事業を行っています。シェルター支援とは仮設住宅を提供する支援です。屋根や柱の資材を支援し、難民や周辺地域に住む現地の大工さんを雇用して建設しますが、壁の部分は難民自身で積み上げます。1軒に必要な約1200個の土ブロックは、割り当てられた場所や水場近くで掘った土と水を混ぜ、木枠で抜いた後、天日で乾燥させて作ります。ひとつひとつ手作業で積み上げ、自分たちで家を完成させていく中で、仮の住まいではあるけれども「我が家」という感覚を持っていただけているのでしょうか。壁に鮮やかなイラストが描かれていたり、前庭がきれいに掃き清められていたり、小さなお花が植えられていたり。故郷を追われた悲しみやつらさをのみこんで、今の目の前の生活をしっかりと築いていこうとしているように見えました。



完成した土ブロックの家。この後表面に壁土をきれいに塗る家も。

南スーダン難民のみならず、アフリカの難民支援をめぐる状況は、シリア難民に世界的な注目がシフトするなか、国連にも資金が集まらず、計画通りに進めることができません。今後も変わらず関心をお寄せいただければ幸いです。カクマに暮らす難民の方々がいつか故郷に帰れるその日まで。

報告:竹中奈津子(本部アフリカ事業担当)



壁には色鮮やかなイラストが。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。